

登録コード:MH516100 開講年度:2026		授業科目区分	学科共通専門科目 選択
科目名	海外研修ゼミナール Go Global Seminar		
担当教員	石田 史織 青木 薫		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	全専攻/1～4学年 前期 水曜・5時限		
単位数、講義室	2 単位	保健学科 2 1 1 講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標
	MH22カリ・保健, MH20カリ・保健		
	文化の多様性を理解し、国際的視野に基づいた保健・医療活動の必要性とその方法を理解できる。		グローバルな活動に自律的に取り組むことの意義や具体的な行動を理解する。
	MH25カリ・保健・看護, MH25カリ・保健・検査, MH25カリ・保健・理学, MH25カリ・保健・作業, MH23カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・検査, MH23カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・作業		
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		グローバルな視点で、国内外の医療・保健・公衆衛生の現状と課題および相違を理解する。
授業で学べる「テーマ」	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		国内外での活動を通して、異文化間コミュニケーションに積極的に取り組むことの醍醐味や、行動をともにするメンバーとチームとして協力しあうことの大切さを理解することができる。
	多文化協働		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	グローバルに活躍できる医療者を目指す第一歩として、多文化社会における医療・保健・公衆衛生に関する学びを深めるべく、海外の医療機関や教育機関などにおける短期の海外研修に、夏期休暇期間中に参加する（渡航先：シンガポール）。また、本学科が交流協定を締結している海外教育機関などから来学者がある場合、積極的に交流し、必要ならばチューターとして来学者のサポートを行う。 夏期海外研修では、渡航前の準備から帰国後の報告に至るまで、受講者は責任をもって主体的にとりくみ、かつ、ともに研修に参加する受講者同士で協力しあうことが求められる。加えて本授業では、英語力の向上について受講者各自で目標を定め、それを達成すべくとりくむ。具体的には、初回講義時と海外研修帰国直後に無料の英語能力試験を受験し、自身の英語力の変化を自覚することを目指す。（さらに各自で、TOEFL、IELTS、英検など有料の英語能力試験を受験することで、英語力の向上を図ることが推奨される。）受講定員は15名程度。定員を超える受講希望があった場合、原則として、これまでの履修科目の成績評価等に基づき選考する。 本授業は、担当教員の海外研修および海外研究者・学生受け入れプログラムの企画・運営などの経験を生かして、受講生とともに有意義かつ魅力的な国際交流を推進するゼミナールである。また、国際社会における男女共同参画社会の形成や取り組みに関して我が国との相違を学び、今後の在り方について検討する。 本授業は、1年次に学んだ「アカデミック・イングリッシュ」や2年次に学んだ「クリティカル・リーディング」の内容を基盤とし、それらの学びをより実践的に活用できることを目的としてしている。		
授業計画	授業の性質上、授業は不規則に開講します。なお、状況によって、海外研修の中止や講義内容、日時の変更もあり得ます。その際は、随時連絡します。 *TB = チームビルディング 第1回(4月15日)概要説明、意向調査 第2回(5月20日)ネイティブ教員の英会話レッスン1 オリエンテーション（提出物・旅券・クレジットカード、旅レジ登録、Student Information Formの記入、海外旅行保険購入等の説明） 第3回(6月 3日)感染症予防の学習と危機管理の対応（課題レポート） 第4回(6月17日)ネイティブ教員の英会話レッスン2 オリエンテーション（TB-プログラム、英語能力試験(90分 EF-SET)） 第2-3回で実施するレッスンで自己紹介から現地の文化や医療・保健体制等を個人もしくはグループで取り組む。 第5回(7月 1日)ネイティブ教員の英会話レッスン3（リサーチ課題成果発表） 帰国後の提出物確認・報告書作成・報告会準備に関する説明 第6回(7月15日)ネイティブ教員の英会話レッスン4(現地生活シュミレーション) 第7回(7月22日)現地サポーター等とのZOOMミーティング 海外渡航時の健康管理・生活上の注意 手続きやプログラム等の最終確認 ——海外研修：夏期休暇中に8-9日間 8月上～中旬予定—— < 帰国後1週間以内に英語能力確認試験(90分 EF-SET)を受験 >		

授業計画	第 8 回(10月7日)研修参加のふり取りと事後学習の成果共有（ワールドカフェ）、報告会の準備、報告書の作成、授業アンケートの実施 報告会：10月21日(水)12:20～12:50・311教室 予定：日時の変更の可能性あり SIT学生の受け入れがあった際は、チューターとしてランチ会や学生間交流会に参加する。(12月中旬予定)
授業の進め方	受講者の積極的かつ主体的な授業への参加を軸に進めていく。 講義はほとんどなく、受講者各自がリサーチ主体の事前課題を必ずこなし、授業内で他の受講者とその成果を共有（グループディスカッションやプレゼンテーションなど）し、議論して、自分たちが参加する海外研修に活かしていくことに多くの時間をあてる。 また、チームビルディングのためのグループワークも実施する。さらに、英語力向上のために、授業内の英語能力試験（無料）の受験と、授業外の英語学習を義務づける。
テキスト，教材，参考書	授業内で適宜提示する。
成績評価の方法	海外研修や海外来学者との交流への参加（40％）、リサーチ課題の提出（10％）、リサーチ課題成果発表（15％）、報告レポート提出（15％）、英語能力試験への取り組み（10％）、課題レポート（10％）などで、総合的に評価します。 なお、英語能力試験の評価（10％）の配分は、第1回授業での受験の点数5％、海外研修帰国後の受験の点数5％とします。 本ゼミナールは前期の授業ですが、海外研修終了後の報告会や報告書の作成が10月までであることから、成績評価は、すべてのプログラムの終了後となります。
成績評価の基準	成績の総合評価の判定基準——60-69点：可、70-79点：良、80-89点：優、90-100点：秀 リサーチ課題は、個々人がレポートにまとめて提出するものと、グループでプレゼンテーションするものがあり、それぞれ情報の有用性、正確性、文章・発表の明晰性を確認します。報告レポートは、求められた字数いっぱい書かれているか、文章の論理性や明晰性は十分か、などを基準に評価します。英語能力向上の取り組みに対する評価は、第1回授業後の受験結果（CFERレベル）と比べて、海外研修帰国後の受験結果（CFERレベル）がどれだけ改善したのかと、どれだけどのような英語力向上の取り組みをしたのかを、提出してもらう結果の記載内容から確認します。 これらの課題に対する採点の基準は、行動目標への達成状況が、最低限の内容であれば「水準にある」（可）、やや優れた内容であれば「やや上にある」（良）、十分に優れた内容であれば「かなり上にある」（優）、卓越した内容であれば「卓越している」（秀）と判定します。
事前事後学習の内容	< 事前学習 > 各回の授業の最後に、次回の授業までに調べてくるべきリサーチ課題や、プレゼンテーションなど準備してくるべき内容を提示します。 < 事後学習 > 授業の内容をふり返って疑問点や不明瞭な点を確認し、次回授業時に質問できるように準備をしてください。 本授業の単位修得には、90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間15時間（2時間×7.5回）＋事前・事後学習時間75時間（5時間×15回）＝90時間 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問・相談はなるべく授業時間内にしてください。 授業時間外の質問・相談は、まずはメールで受け付けます。 石田史織 shioriis@shinshu-u.ac.jp 保健学科中校舎4階 石田史織研究室